

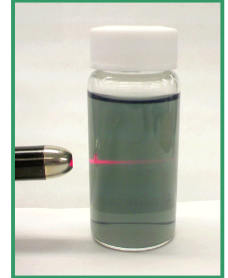
防汚性能付与型遮熱コーティング液

作空良~SAKURA~WT06



“作空良~SAKURA~WT06” 雨水・散水による防汚性能を有した水ベースの遮熱コーティング液

- ◇ 光触媒防汚コーティング液の製法を工夫することで従来の光触媒性能はそのまま太陽光中の赤外線を反射させる性能を新たに付与することに成功しました。
- ◇ 夏場の直射日光が差し込む場所においては高効率で赤外線をカットし、室内に差し込む西日の「じりじり感」を大幅に軽減します。
- ◇ 冬場において、窓から放出される室内の熱をカットし、暖房器具の効率を向上させます。
- ◇ 遮熱コーティング液は水ベースです。施工時はVOCを発生せず、室内環境には悪影響を与えません。
- ◇ 大阪府より「酸化チタンを原料とした長寿命化防汚コーティング液」として『おおさかエコテックマーク』の認定を受けました。



作空良WT06
~SAKURA~

遮熱コートによる効果について

光触媒コート窓ガラスの赤外線カット能力測定

直射日光が強く差し込んでいる場合

検討方法

- ・太陽光が入射することで、黒色ボード表面が温度上昇する。光触媒コートと未処理面の赤外線カット能力を比較した。
- ・測定日：10月28日、15:00
- ・赤外線表面温度計を用いて黒色ボードの表面温度を測定した。

未処理面 黒色ボード表面の温度測定結果：53.6℃

遮熱コート面 黒色ボード表面の温度測定結果：47.8℃

遮熱コートの効果のイメージ図

遮熱コートを施工することで、太陽光が差し込むことによる「じりじり感」を大幅に軽減することができる

光触媒の窓ガラスへ施工による室内温度への影響の比較試験

4月末の京都における比較的肌寒い環境での試験を行った。光触媒を施工することで日中は太陽光中の赤外線の室内への侵入をさえぎり、夜間は室内の温度が窓から放出されることを防いでいる。

最高温度は未処理の部屋の方が高い

最低温度は常に未処理の部屋の方が低い

写真：測定室内の温度計設置状況 測定条件

- ・実験は、社員寮4Fの隣接する2部屋を使用。部屋は6畳のフローリングで西向きに窓が1つ。
- ・窓面積：3.28 m² (2.05 m × 1.6 m)
- ・室内空間：25.01 m³ (3.4 m × 2.83 m × 2.6 m)
- ・気積率：0.13 m³
- ・温度測定には温度ロガーを使用。(EasyLog製、分解能0.5℃、5分間隔)を部屋中央の150 cmの高さに設置。

遮熱コートによる防汚効果について



写真：5ヶ月後の雨筋汚れに対する防汚性能評価結果(左施工面、右未処理面)

・窓ガラス背面に反射板を設置して撮影しているために外の風景が写りこんでいます。



写真：光触媒施工の窓ガラスへの散水の中の様子(均一な水の膜ができて簡単に洗浄ができます)

“おおさかエコテック” マークとは？

大阪府では、中小・ベンチャー企業等が開発した先進的な環境技術の環境保全効果等々を評価し、その結果を広く周知し普及を図る環境技術評価・普及事業「おおさかエコテック」を実施しています。



〔本商品についてのお問い合わせは下記へ〕

日本メンテナンスエンジニアリング株式会社 企画部

〒530-0035 大阪市北区同心一丁目7番14号 TEL 06-6355-3000 FAX 06-6882-0717